

特集

〈事例〉

学童保育の指導員補助として 女性会員が生き生きと活躍

公益社団法人
酒田市シルバー人材センター

(山形県)

酒田市SCでは、NPO法人からの依頼を受けて、平成27年度から学童保育の指導員補助の仕事を労働者派遣事業として開始。現在、18か所で33人の女性会員が、児童の遊び相手や見守りなどで活躍している。学童保育での仕事を学ぶ講習は毎回希望者が多く、受講後にセンターに入会して、指導員補助として就労するケースも多い。女性会員の拡大にも大きく貢献している。

日本有数の米どころとして知られる山形県酒田市は、古くから日本海の海上交易と最上川の舟運の要として発展してきた。

女性会員が増加

酒田市SCは、昭和五十八年に設立し、平成二十四年度に公益社団法人に移行。令和二年度の会員数は七百七十八人で、会員の平均年齢は七十二・六歳となっている。ここ数年は女性の入会者が伸びていて、全体に占める女性会員の割合は、五年前の平成二十八年年度の三八・六%に対し、令和二年度の四五・一%と大きく上昇。

女性会員の伸びは、子育て支援をはじめ介護支援などの就業機会

の拡大と比例している。これらの就業形態は主に労働者派遣であり、近年、実績が伸びている。令和二年度の労働者派遣事業の契約金額は一億円を突破し、県内トップクラスとなっている。

子育て支援事業

現在、酒田市SCで取り組んでいる子育て支援事業は次の通り。

- ①学童保育の指導員補助
市内十八か所の学童保育の指導員補助として、女性会員が労働者派遣事業として就労。
- ②障害児支援
障害のある児童の放課後児童等

デイサービスで、労働者派遣事業として児童の送迎、指導員補助な

どを担当。看護師、保育士の資格を生かした役割を担っている会員もいる。令和二年度の就業実人員は二十二入。

- ③子育て支援（訪問サービス）
請負による、家庭内での家事援助が中心。
- ④保育所での子育て支援

保育所（一か所）の依頼を受けて令和三年五月に労働者派遣事業として開始。仕事内容は乳児の見守り、おやつ準備など。

今回は、①の学童保育の指導員補助について取材した。

学童保育との出会い

酒田市SCでは、平成二十七年四月に学童保育の仕事を開始した。



酒田市S.C.では、児童保育の指導員補助の仕事に労働者派遣事業として実施。現在、三十人の女性会員が活躍している。

きつかけは、市内で十六か所（令和三年五月現在）の児童保育を運営するNPO法人「がくほれん」の阿部勇事務局長から、児童保育で

の人員確保について協力を依頼されたことだった。当時の「がくほれん」には、仕事を持つ保護者から児童保育の開所時間の拡大を望む声があった。また、平成二十七

年四月に改正した国の「子ども・子育て支援新制度」で、児童保育の早朝・延長保育のための支援が含まれていたことから、開所時間の拡大を検討していたが、人員の確保が難しかった。このため平成二十七年一月、「がくほれん」の阿部事務局長が酒田市S.Cを訪れ、早朝・延長保育の時間帯に会員を派遣できないかと相談した。

酒田市S.Cの高橋純事務局長（当時は事務局次長）は、「地域のニーズに応えたいという思いに加え、女性会員の活躍の場を広げたいと考え、協力しますと即答しました」と当時を振り返った。

これにより、「がくほれん」では平成二十七年四月一日から児童保育の開所時間を拡大して、七時三十分～十九時の保育を実現した。

「がくほれん」と酒田市S.Cでは、最初は三か月の契約で、児童保育の指導員補助として会員の派遣を開始。三か月後には六か月の契約を結び信頼関係を構築して、

現在は一年契約で実施している。阿部事務局長、高橋事務局長ともに、「大変良好な関係を築くことができました」と口をそろえる。

児童保育での仕事の内容

児童保育は、「小学校の放課後の子どもたちの健全育成のための場」と阿部事務局長。「がくほれん」が運営する十六の児童保育には現在、約千人の児童が入所している。

酒田市S.Cでは児童保育での実績を重ねる中、ほかのNPO法人からも依頼を受けて、令和二年度から新たに二か所の児童保育での労働者派遣事業を開始した。

会員が担う指導員補助の仕事は、主に児童の遊び相手や見守り、清掃業務など。就労時間は児童数が多くなる時間帯で、基本的に平日は十五～十九時、土曜日は七時三十分～十時三十分と十五時三十分～十八時三十分、学校休校日（夏休みなど）は七時三十分～十時三十分と十五～十九時。

学童保育一か所につき一〜三人の派遣会員を配置。急病や急用の際は代わりの派遣会員を調整し、依頼された人員を欠くことなく継続している。令和二年度は新型コロナウイルスの感染拡大により全国の小中高等学校が臨時休校となったが、学童保育は開所しており、開所時間の変更などに応じて、都合のつく会員が調整し合って依頼に応えた。

なお、令和三年度に酒田市S Cが受注している学童保育は十八か所、就業実人員は三十三人となっている（五月三十一日現在）。

講習会で新入会員を獲得

受注当初は四、五人の会員で開始したが、酒田市S Cでは受注拡大を見据え、新たな派遣会員の確保に向けて山形県S C連合会（以下、連合会）に相談。平成二十七年六月、連合会と連携して高齢者活躍人材確保成事業を活用した「学童保育従事者講習」を開催し

令和元年九月、会員が就労する学童保育がNHK山形の取材を受けた



た。受講対象は、センター会員と地域在住のおおむね六十歳以上の女性。定員は三十人としたが、応募者多数のため増員し、四十人が受講。受講後、七人がセンターに入会して、学童保育での仕事に就いた。

講習は二日間の日程で、酒田市や「かくほれん」などの協力も得て、学童保育の指導員から、学童保育の役割、子どもとの接し方、学童保育での危険予知などを学んだ。平成二十八年度の講習は、二十五人が受講し、受講後に十三人

が会員となり仕事に就いた。

最近では、令和三年二月に「学童保育補助スタッフ講習」を開催。コロナ禍のため一日だけの講習で定員十人としたが、希望者が多く十四人が受講。受講後、四人が入会し、この仕事をしている。

また、学童保育の派遣会員向けに年一回、スキルアップ講習会を開催している（コロナ禍により令和二年度は中止）。

取り組みやすい仕事

指導員補助の仕事には、講習を受講しなくても就けるが、ほかの労働者派遣事業と同様に、就労を希望する会員は職場（学童保育）

を見学し、仕事の内容と場所を確認してから就労の可否を判断する。酒田市S Cの労働者派遣事業の中で、学童保育と介護支援の仕事

は特に女性会員から人気がある。その理由の一端を高橋事務局長は、「学童保育は現場に指導員がい

学童も介護支援も、補助に特化した仕事であることが、取り組みやすいと会員に受け止められているようです」と話す。

さらに、事務局では派遣会員、派遣先、連合会と良好な関係を築くことで、会員が安心して働ける環境づくりに努めている。

学童保育の仕事について、事務局で苦勞していることは特にないという。一方、良かったことは、

女性会員が増えたこと。令和元年にはNHK山形のニュース番組で約十分、学童保育での女性会員の活躍や酒田市S Cと学童保育の関わりについて紹介された。

高橋事務局長は「会員が生き生きと仕事をしていることが何よりですし、派遣先からも良い評価をいただいています」と語る。

「かくほれん」の阿部事務局長は、「運営者としては、人員の確保ができています。当法人の正職員の平均年齢は約三十八歳、パート職員

派遣先の学童保育の子どもたちから贈られた手紙や似顔絵が宝物だと話す会員の中西美穂さん（前列）。後列左から土井一郎理事長、高橋純事務局長



子どもたちに感謝

学童保育で指導員補助として働いている中西美穂さんは、酒田市

は約五十三歳で、センターの派遣会員は六十〜七十代の女性です。から、子どもたちから「おばあちゃん世代もいて、楽しい」という声が聞かれます。当法人の指導員からは、いろいろな経験を持つ人たちと一緒に働くことで「勉強になることが多い」といった声も聞かれます」と語った。

SCの職員であったが、定年後も嘱託職員として長年勤務した後に会員になって、二年前にこの仕事を始めた。

仕事場は、平日の放課後に七十人ほどの児童が来所する学童保育。初めて見学に訪れたときは、子どもたちの声とパワーに圧倒されたそう。しかし次第に慣れ、昔ながらの遊びを披露することもあれば、児童から新しい遊びを教わることもあるという。「頭の体操になります。適度に体も動かすので、心身共により健康になった感じですよ」と中西さん。

けんかなどが起きたときは指導員が的確に対応するので、困ることはないという。児童との交流が楽しく、やりがいを感じる日々だ。「退職後の一人の時間も大切ですが、会員として社会と関わっている時間は生きがいにつながっています。学童保育ではあちらこちらから「遊ぼうよ」と声が掛かり、わくわくします。老いても、期待

より良いマッチングを追求

してくる子どもたちに感謝しています」と笑顔で現在を語った。

女性会員が増える中、女性委員会が中心になり、紙芝居の上演会など、ボランティア活動を通じての世代間交流も活発になっている。高橋事務局長は、女性会員のさらなる拡大と、会員と就業のより良いマッチング、そのために会員の声を聞いて、悩みを共有できる情熱ある職員の育成を課題に挙げた。

土井一郎理事長は「最近は七十歳雇用を掲げる企業もありますが、誰もが雇用されるわけではないです。当センターでは会員と就業のより良いマッチングを追求することにより、六十代前半から満足できるセンターを目指しています。学童保育と会員は、マッチングの好事例だと思います。地域課題のニーズはまだありますし、会員の働き方には請負、委任、派遣があり、ボランティア活動に参加する

機会もあります。会員の希望や都合に合わせて働き方を選んで、地域に関わり、長く活躍できる、そんなセンターづくりをしていきます」と明るく力強く、今後の方向性を示した。

（増山美智子）

事業運営状況 (平成28年度～令和2年度)

年度	会員数			相入率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男	女	計						
平成28	448	282	730	1.7	639 (96,247)	87.5	7,697	378,294	37.2/62.8
29	428	283	711	1.6	614 (94,285)	86.4	7,596	364,030	39.0/61.0
30	430	313	743	1.7	682 (88,082)	91.8	7,110	369,367	39.1/60.9
令和元	442	338	780	1.8	713 (92,580)	91.4	6,660	415,365	34.4/65.6
2	427	351	778	1.8	714 (91,911)	91.8	6,817	427,192	29.1/70.9

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む